

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/08/18 ～2017/08/31)

園芸学部、タミルナドゥ農業大学、インド

1. 勉学の状況

8月は外国人登録の手続きで1週間以上時間を取られてしまい、授業や研究の話をあまり進めることが出来ませんでした。できたことは、受講する授業の選択と、研究計画の準備をすることです。私は担当教授と相談した結果、外部でのフィールドワークや調査をメインに行うため、また学部生であることも考慮して、Iセメスターでは学部生の授業を1つと大学院の授業を1つ受講することになりました。学部生の授業は Production Economics and Farm Management, 大学院の授業は Agricultural Finance and Insurance です。学部生の授業は9月に入ってからの開始となり、大学院の授業も9月2週目以降から参加することになりました。研究については、私はマイクロファイナンスに興味があるため、まずはインドでどのような取り組みが行われているのかをマイクロファイナンス機関のwebページや論文を読んで把握し、そのあとで、自分のアイデアを研究にすることになりました。先生方から参考文献も紹介していただき、それらを読み進めている状況です。

2. 生活の状況

8月は外国人登録がメインの月でした。8月18日にインドに着き、週末をはさんで8月21日から外国人登録のための書類を集めました。インドでは180日以上滞在する人に外国人登録が義務付けられています。入国して14日以内に行わないといけません。インドの外国人登録は、事前にインターネットで調べていたのですが、とても評判が悪いです。少しでも書類に不備があるとやり直しになりますので2回、3回はやり直しになるのを覚悟して気長に取り組んだ方がいいと思います。インターネットに必要書類が挙げられているのですが、これは学生だけでなく、仕事をする人や調査をする人も対象にした一般的な書類です。実際は大学で用意してもらうべき書類が決まっていたので、それを記しておきたいと思います。もし次にタミルナドゥ農業大学へ留学される方がいらっしゃったら、参考にしてください。おそらく大きな変更はないと思います。

1、Application Form

これはオンラインで記入し登録するものです。最後に顔写真とそのほかの書類のPDF ファイルをアップロードする必要がありますので、最後に行うのがよいと思います。事前に書いて書類をアップロードせずに保存しておくこともできます。その際は Application ID が発行されますので忘れずに書き留めておいてください。また、最後に印刷する必要がありますので注意してください。

2、Form C

これは大学側に用意してもらおう書類です。特定の形式に従って自分の情報を記入し、それを書類に起こしてもらいます。大学の先生に伝えれば、担当の先生に連絡を取ってもらえると思います。これが居住を証明する書類の意味も含まれます。

3、Bonafide certificate

これも大学側に用意してもらおう書類です。この書類が1番大変でした。まず、この書類はフォーマットが複数あります。大学の先生もどのフォーマットが必要なのか把握できていないので、ただ Bonafide certificate をくださいと言っても違うフォーマットのものを渡される可能性があります。(私はそれでやり直しになりました。) 重要なのは FSIS Number という登録番号をもらうことです。これがないと受け付けてくれません。(私はこれでもやり直しになりました。) 私は交換留学生で正規の学生ではないため、大学の ID がもらえません。ですが FSIS がないと警察署の職員のかたは受け付けてくれないため、根気強くお願いしてください。これには学部のスタンプとサインが必要です。

4、パスポート、ビザのコピー

5、パスポートサイズの顔写真

以上が必要な書類です。

これらがそろったら、すべての書類のコピーを2部ずつ、原本を含めて3部になるように準備します。また書類をスキャンして、Application Form の欄に書いたようにアップロードし、また CD にデータをコピーします。(外国人登録のホームページにはありませんがこれも必要でした。) アップロードできる書類のサイズが 200KB までなので注意してください。顔写真は JPEG 形式でスキャンしてください。最後に Application Form のページから警察署へ行く日を予約します。これらがそろったら予約した日に警察署へ行って審査を受けます。

1つ1つの書類を準備するのに大学内の様々な部署へ行って、長い時間待つ必要がありました。ですが14日あればさすがに全部揃うので心配しないで根気強く頑張るしかないです。インドの行政手続きは大変ですが、インドの人たちはとても親切です。わからないことは素直に聞けば丁寧に教えてくれますし、手伝ってくれます。

次に寮の生活を少しだけ書きたいと思います。寮は4人部屋で、私の部屋には私とナイジェリアの男性1人と女性1人がいます。部屋には個人部屋と共有スペースがあって、個人部屋には机、ベッド、クローゼット、洗面所、トイレ、お風呂場があります。シャワーはありませんので水またはお湯をバケツに汲んで、手桶で浴びます。共有スペースはダイニングルームとキッチンで、冷蔵庫も共有です。食事は各々で用意します。私のルームメイトはたまにアフリカ料理を振舞ってくれます。買い物は近くの小さいお店でだいたい簡単なものはそろいます。街中には大きなショッピングモールやスーパーマーケットもあり、そこへ行けばほとんど必要なものはそろいます。自炊しながら楽しく共同生活をしています。大学がとても広いので、学生も先生もバイクや自転車を使って構内を移動しています。私も自転車を買おうと思っています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/09/01 ～2017/09/30)

1. 勉学の状況

今月から授業が始まりました。私の大学は3セメスター制なのですが、1セメスターでは学部生の授業を1つ、大学院の授業を1つ受講することになりました。私の大学では、1つのコースが Theory Class と Practical Class に分かれていてそれぞれ週に1回ずつ授業があります。よって私は週に4回授業へ行っています。学部生の授業のコース名は Production Economics and Farm Management で、この授業では農業経営や農作物の生産にかかる費用の考え方や費用の計算のしかたなどを勉強しています。大学院の授業のコース名は Agriculture Finance and Insurance で、インドの Agriculture Finance および Insurance の発展や現状について勉強しています。授業では日本の授業とは異なりほとんど板書がありません。またテキストや資料も配布されません。学生は先生の話聞いて、ノートをとっていきます。この授業スタイルは私にとってとても厳しいです。先生が言っていることが聞き取れないと、何をやっているのか全然わかりません。友達にノートを見せてもらいながら、どうにかノートをとっている状況です。少しずつこの授業のスタイルに適応していきたいです。

授業以外の時間は、フィールドワークにむけて論文を読み、計画を立てています。インドに来てから、私が日本ではなかなか得ることのできなかつたマイクロファイナンスの情報がたくさん得られて、インドがマイクロファイナンス事業の先進国であることを実感しています。国単位で様々な取り組みが行われていてどれも興味深いです。インドに来たことでこういったリアルな状況を知ることが出来たのは本当に良かったと思います。先生方も親身になって様々な資料を紹介してくださり、読むものには困りません。これからさらに調べて、インドのマイクロファイナンス事業について理解を深めたいです。

2. 生活の状況

インドの生活も1ヶ月が過ぎ、少しずつ慣れてきているように感じます。今月は簡単に私の1日について紹介させていただきます。朝はだいたい10時頃に学校につくように寮を出ます。寮は大学内にあるのですが、大学が広いので自転車で通学しています。私の大学のあるコインバトルは女の人はほとんどインドの伝統衣装であるサリーやクルタを着ています。これは大学の中でも同じで、制服を着る学部生以外みんな伝統衣装を着ています。傾向としては、学生はクルタが多く、先生や職員のかたはサリーを着ていることが多いです。私も大学にはクルタを着て行っています。私の大学のお昼休みは13時から14時です。学生の多くが寮で生活しているため、クラスメートはほとんどが寮の食堂でお昼を食べます。私は大学院博士課程の学生さんが使っている部屋を間借りして、そこで論文を読んだりしているので、よくその学生さんと一緒にお昼ご飯

を食べます。インドのお弁当は白いご飯とカレー（インドではグレイビーと呼ばれてます）やサンバルというスパイスの効いたソースというかスープというかといったものがメインです。みんな各々のカレーやサンバルをシェアして食べます。ベジタリアンが多いので、私もみんなとシェア出来るように最近では自分で野菜だけのカレーを作って白いご飯と一緒にもっていています。毎日カレーなんて飽きるのではないかと思っていたのですが、そんなことはありませんでした。インドの女の人は料理がとても上手で毎日いろいろなカレーをシェアさせてもらっていますが、どれもおいしく全然飽きません。お米がメインなのも日本と変わらないのでいいのかもしれませんが。インドのお米はパラパラとしていますが、それが逆にカレーとよく合います。私もいつか作り方を教えてもらいたいと思っています。午後は3時半から4時頃ティータイムを取ることがあります。甘いチャイとサモサ（味のついたジャガイモを包んだ揚げ春巻のようなもの）などのスナックを買います。これで20円です。とてもおいしく病みつきの味です。そのあとだいたい5時くらいに帰宅します。大学の業務自体が5時までなので図書館を除いてほしい5時を過ぎると先生や職員の方も帰宅準備を始めます。寮に帰ってからは、日用品を買いに行ったり、部屋でゆっくりしたり、夕飯を作ったりして過ごします。最近ではYoutubeを見たりしながらインド料理を見よう見まねで作ったりしています。

休日は隔週くらいでファーマーズマーケットに行きます。ここでは農家さんが直接農作物を販売するので新鮮な野菜がとても安く手に入ります。どの野菜もだいたい1キロ100円以内で買えます。日本の産直よりも大規模で、実際に農家さんがその場にきて売っているので市場で仲買人さんが商品を買うような感覚で一般の人が野菜を買っています。日本では見たことのないような野菜も売っており、見るだけで楽しいです。日本にもあればいいのと思っています。

インドは祝日が州によって違います。そして、だいたいの祝日はヒンドゥー教のお祭りです。ローカルなお祭りも多く、私が把握できていないだけですが、学校で突然「これから〇〇のセレモニーやるよ」といった感じでセレモニーに呼ばれたりします。日本で宗教関係の行事を学校で行うことはなかなかないので驚きました。インドの祝日はヒンドゥー教のお祭りが多いですが、一方でキリスト教のクリスマスやイスラム教のお祭りも祝日として定められています。国民の7割はヒンドゥー教徒なのですが、それ以外の宗教の人たちの文化も配慮されていて、インドは様々な宗教や文化を尊重しあっている国なのだと改めて思います。10月にはインドで1番大きなお祭りの1つDIWALIがあるので楽しみです。

最後にインドの交通事情を紹介したいと思います。知っている方も多いと思いますが、インドの交通事情は過酷です。車よりもバイクが多いというのもあり、隙間があればみんなその隙間に入って前へ前へと行こうとするのですぐに道路が詰まります。横断歩道はあつてないようなものです。基本的に車、バイクが優先です。ぼーっとしていると轆かれます。また、各々が意思表示のためにクラクションを頻繁に鳴らします。決してネガティブな意味で使っているわけではないのですが、やはり自分の後ろで鳴らされると“ひい！すみません…”と心の中で思ってしまいます。しかし、インドの道路では毅然とした態度で通行しないとどこにも行けない、道も渡れないということになりますので、頑張っこの環境に慣れようと思います。



ヒンドゥー教のお寺です。
たくさんの神様が飾られていてとてもカラフルです。

学校で行われたプージャという
お祭りの時の祭壇です。



ファーマーズマーケット
です。
朝早くから活気に満ちて
います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/10/01 ～2017/10/31)

1. 勉学の状況

授業が始まってから1ヶ月が経ち、こちらの授業形式にも慣れてきました。クラスメイトとの仲も深まってきたと個人的には感じていて、授業前にクラスメイトとおしゃべりすることが私の楽しみになってきています。基本的にクラスメイト達はタミル語で話すので、タミル語も少しずつ勉強中です。3ヶ月目にしてやっと確信を持ったのですが、授業ではしばしばタミル語で説明がされていました。初めは私が英語を聞き取れていない、特にタミル訛りの英語が聞き取れていないだけだと思っていたのですが、実際はけっこうな頻度でタミル語が授業中使われていました。大学院の授業ではほかの州出身の学生もいるためか、ほとんどが英語ですが、学部の授業は全員がタミルナドゥ州出身のためタミル語の割合が高めです。幸いクラスメイトは英語でノートをとりますし、何か作業をするように言われたときは英語でその内容を教えてくれるので、どうにか授業には参加できています。なかなか授業の説明を聞き取るレベルまでタミル語を使えるようになるのは難しいと思いますができる限りタミル語も勉強して、またクラスメイトの力も借りながら授業を受けていきたいと思います。

フィールドワークについては、私のサポートをしてくださっている大学院生の方が自分の研究で忙しく、私のフィールドワークの計画はまだ立っていません。来月には落ち着くそうなので、そのあとで詳しい計画が立てられると思います。といっても私自身まだインドのマイクロファイナンスやタミルナドゥ州のマイクロファイナンスについて2次データを集めたり、マイクロファイナンス機関の年間報告書を読んだりとやるのがたくさんあるので、並行して進めて行きたいと思います。

2. 生活の状況

今月はインドで有名なお祭りの1つであるディワリがありました。ディワリはヒンドゥー教の新年を祝うお祭りで年によってまた地域によって日にちが異なります。タミルナドゥ州では今年は10月18日の水曜日がディワリでしたが学校はその前後2日間休みだったので、実質1週間のお休みでした。会社やお店もディワリの日やその前後はお休みになります。感覚的には日本の年末に近いのかなと思います。私のクラスメイトもほとんどが自分の家に帰省していました。ディワリは光のフェスティバルとも呼ばれ、その時期になるとあちこちに花火屋さんが現れます。そしてみんなで爆竹やクラッカーや花火を買い、ディワリの日それらを使ってお祝いします。話には聞いていたのですが、どのようなものなのか私自身とても楽しみにしていました。ディワリが近づくと街中の至る所でクラッカー

の音が聞こえるようになります。夜中もずっとどこかで音がするので、なかなか眠れませんでした。しかし、本当に大変だったのはディワリの当日でした。朝 5 時頃、まだ夜が明けないころからクラッカーの音が聞こえ始め、私はそれで目を覚ましました。日中になるとその音はどんどん大きくなり、はじめはクラッカーの音にいちいちびくびくしていましたがだんだん慣れて動じなくなりました。また、友人たちが“Happy Diwali”のメッセージを送ってくれて、お祭りが始まったことを実感しました。友人が昼食に招待してくれたので、お昼からわたしはルームメイトと一緒にその友人のお宅におじゃましました。ディワリの日にはインドの人は新しい服を用意すると聞いていたので、私も前日に買った新しいクルタを着て友人のお宅へ向かいました。おうちではお母さんがたくさんのお昼ご飯を用意して待っていてくれました。お昼ご飯は南インド料理で、ご飯やカレーをバナナの葉に盛り付けてもらい食べました。最近は手で食べるのがだんだん上手になってきたのではないかと感じています。今回もすべて手で美味しくいただきました。伝統的なお菓子もごちそうしていただきました。ものすごく甘いですが、くせになる味でした。そのあとはおうちにいた子供たちと一緒にクラッカーでお祝いしました。近くでやるとものすごい音がするのでずっと私は耳を塞いでいましたが、子供たちは楽しそうでした。インドの人はみんなディワリの日にはクラッカーや花火を楽しむのだと思っていたのですが、私の友達の中にはクラッカーや花火に大金をかけるなんてもったいないと考えている人も多くいたのが意外でした。その後友人のお母さんにメヘンディ（ヘナタトゥー）をやってもらいました。デザインは伝統的なもので、健康などを祈願するのだそうです。近所からヘナの葉を取ってきてペーストを作り、それを手の上にのせます。乾いたらペーストを取り除きます。すると鮮やかなオレンジ色の模様が手に写ります。1度やってみたかったので貴重な体験ができました。2週間ほどで色は消えてしまいます。日が暮れてから友人が丘の上にあるヒンドゥー教のお寺につれて行ってくれました。そこからはコインバトールの街が一望できるのですが、ディワリの夜は街中でみんなが花火を打ち上げてお祝いするため、街全体が花火大会のような状況でした。いままで見たことのない景色で 2 時間近くずっと花火が打ちあがるのを見続けていました。とても素敵な 1 日でした。

一方でディワリというと大量の爆竹や花火を使うことによる大気汚染や騒音の問題が取り上げられます。ディワリの期間はインドに住んでいる日本人がインド国外に逃げ出したと思うとも言われたりしています。実際ディワリの日には街中が煙に包まれていましたし、クラッカーや花火の音は朝から晩まで鳴り、騒音といわれてもおかしくないものでした。また、ディワリが終わると街中にクラッカーや花火から出るごみが残されていて、環境にやさしいとは言えないなと感じました。これに対してインド国内でも対策が取られており、爆竹を規制したり環境に配慮したグリーン・ディワリが提唱されたりしているようです。ディワリのお祭りはとても華やかで伝統的な、素敵なお祭りなのに、こういったことで悪いイメージが広まってしまうのはとても残念です。こういった問題を乗り越えて、インド国内だけでなく国外からもいい意味で注目される素敵なお祭りになればと思った 1 週間で

した。

日本ではもう秋も深まり冬に向かってはいますが、コインバトールは季節の変化を全く感じません。朝晩は25℃前後、昼間は30～34℃前後で湿度もあまり高くない日本の夏よりは過ごしやすい夏のような気候の中生活しています。私は寒さに弱いため一年中夏なのはいいなと思っていましたが、いざその環境で暮らしてみると秋や冬が恋しく感じます。紅葉が見られないのは残念ですが、四季がある日本の良さを感じながら、来月も暑いインドを楽しんでいきたいと思えます。



ディワリの日のお昼ご飯。上の段の左端にあるのがスイーツで真ん中二つは南インドのスナック、右端がマトンカレーでご飯と混ぜて食べました。



メヘンディ。この太陽のような模様が伝統的な模様だそうです。独特のにおいがします。



丘の上から見たディワリの
コインバトル。赤やオレ
ンジ色の光が花火なのです
が、写真では美しさを伝え
られないのが残念です...

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/01 ～2017/11/30)

1. 勉学の状況

今月で第1セメスターがだいたい終わります。私は聴講生という形をとっているのですが、試験についてはあまり考えなくてよいのですが、周りのクラスメイトは試験勉強に追われています。Agriculture finance and Insurance のクラスでは学生のプレゼンテーション発表がありました。プレゼンテーションはパワーポイントを使って行われたため、いつもの板書なしタミル語交じりの講義よりは理解しやすかったです。インドの農業金融に対する政策やさまざまなアプローチについて概要を知ることができ、気になったキーワードがあったら調べてみるきっかけにもなったのでよかったです。Production economics and Farm management のクラスは特に practical class で板書による説明が多かったことと数学的な要素が多かったことで、だいぶ練習問題などにもついていくことが出来ました。わからないところを素直にクラスメイトに聞けるようになったのも状況改善につながったかと思います。前まではわからないところがどこかもわからなかったのですが、今は自分で問題を解けることに少し喜びを感じられるようになりました。とはいえ相変わらずタミル語は挨拶や簡単な単語以外ほとんどわからないので勉強したいと思います。

また今月は受講しているクラスとは別に Marketing コースの校外学習に参加しました。週に1回、様々な農業関連の施設に行って実際にどのようなことがそこで行われているか見学します。前は Central Warehousing Cooperation という農産物（主に穀物類）や肥料、農薬などの保管や卸売りを担っている会社へ行ってきました。大きな倉庫がたくさんあり、その中に袋詰めにされたたくさんの穀物が保管されていました。この会社がどのような活動を行っていてそれが農業市場にどういった効果をもたらすのかといったことを、実際に施設を見ながら聞くことができ、貴重な体験ができたと思います。これからも継続して参加させてもらえるということなのでそこからたくさんのお話を吸収出来ればと思います。

2. 生活の状況

11月はインドでは珍しく？祝日がない月(インドは世界で1番祝日が多い国らしいです)で、特にインドらしいイベントはありませんでした。季節の移り変わりも感じることはないためもうすぐ2017年が終わるとはあまり考えられないです。

個人的なことですが、今月から放課後にサッカーを始めました。インドの大学は基本的にサークル活動のようなものはありません。放課後は寮に戻って夕飯を食べたり、テレビを見たり、勉強をしたり、映画を見に行ったりといったことが女子学生の放課後の過ごし方の主流みたいでグラウンドや屋内運動場に行っても女子学生がスポーツをしている姿をほとんど見かけません。インドではそもそも運動をする習慣があまりないようでそれも影響しているのかと思います。インドの大学ではサークル活動のようなものがあまりないことはインドに来る前から知っていたこともあり、そもそもインドでサッカーをするとは考えていませんでした。ですが、先日たまたま構内をジョギングしていた時にサッカーをしている学生さんたちを発見したことをきっかけに、そこに参加するようになりました。そんなに大人数ではないのでどちらかというとフットサルに近いのですが、時間のある時はグラウンドに行って楽しくサッカーさせてもらっています。

インド生活での放課後の過ごし方は日本とは大きく異なっています。日本の学生は放課後、勉強、バイト、サークル、飲み会？などなどに忙しい方がほとんどだと思いますが、インドではバイト、サークル、飲み会がありません。そもそも私の大学ではほとんどの学生が寮生活のため校外で一人暮らしをしている学生がほとんどいません。食事も寮から提供されるので友達を誘って外にご飯を食べに行くといったこともなく、寮の夕食の時間になるとみんな寮へ戻っていきます。一緒にサッカーをしている学生さんたちも学部生は 6 時半、大学院生は 7 時半になると寮に戻る時間だからと帰っていきます。学生さんはみんな寮が生活の軸になっているのでなかなか放課後に一緒になにかしようと思っても難しいなと思います。また女子 1 人で夜外へ出るのは危ないということでもなかなか放課後に外出もできず、日用品を買いに行く程度しかできないのは少し残念だなと思っています。留学生も少なく（もちろん日本人はいませんが、女性は私を含めて 2 人、同じ年ごろの留学生もいません）放課後は個人活動が多めになっています。来た初めはルームメイトも 3 人いてあまり寂しさを感じませんでした。先月、今月と 1 人ずつ自分の国に帰ってしまいました。日本でも個人活動はしていたのでそれ自体はあまり苦ではありませんがやはりちょっと寂しいです。バイトはあまり恋しくありませんが、サークルや友達との夕飯、飲み会は恋しいです。日本の学生生活とはちょっと環境が違って戸惑うこともありますが、自分なりの放課後の過ごし方を探したいと思います。そういう意味ではサッカーができる場所をみつけたのはよかったなと思います。

インドにきて 3 ヶ月以上が過ぎ、初めは大変だと思っていた不定期に起こる停電も水の出る蛇口しかないバスルームも毎日手洗いで服を洗濯することにも何も感じなくなっていることには自分でも驚いています。正直大変だなと思うことはいっぱいあるのですが、今はまだインドに住んでいたいなと思っています。大変なこと以上にインドの文化やインドの人たちから得られる新しい刺激が私にとってとても魅力的で興味深いもので、深く知れば知るほどハマっていくからなのかなと思います。インドの人たちは家族や友人、お客さんをととても大切に、助けを求めている人がいれば親切に接してくれます。先日自転車

のタイヤがパンクしてしまい、大学構内を、自転車を押して歩いていたら、全く見知らずのおじさんが「タイヤパンクしたのか？自転車屋さんはこっちにあるぞ。」と声をかけてくれました。私はタミル語がわからず、おじさんも英語はあまりわからないようでしたが、一生懸命知っている英語とタミル語で自転車屋さんの場所を教えてくださいました。道を聞けば誰でも嫌な顔一つせず教えてくださいました。（合っていないことも多いですが…）インドで女子が一人で生活するのは不可能に近く、絶対に誰かに頼らなければいけないのですが、みんなが困ったときは助けてくれるので本当に人の温かさを感じます。もちろん中には悪意を持って近づいてくる人もいますが、圧倒的に親切心で接してくれる人が多いと感じます。そんなインドの人の温かさに触れられただけでもインドにきてよかったと思いますし、これからもインドの魅力的な部分をたくさん見つけたいと思います。

日本ではクリスマスや年末を意識したデコレーションやイルミネーションで街が彩られていると思いますが、インドでは特にそういったこともなく、淡々といつもの生活が営まれています。私個人はクリスマスや年末前のあの雰囲気が好きなのでちょっと寂しいなと思っていますが、インドではクリスマスは祝日ですのできっと何かあるはずです。来月はインドのクリスマスについて書かれば良いなと思っています。



Central Warehousing Cooperation の写真です。大きな倉庫がたくさんあり、品質管理も徹底されていました。



メヘンディ（ヘナタトゥー）屋さんをお願いしてやってもらいました。メヘンディ屋さんは街中の大きい通りに座っています。たくさんあるデザインを何も見ずに描くので本当に職人技だなと思います。メヘンディは女の方がしますがメヘンディ屋さんは男の方が多いです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/01 ～2017/12/31)

1. 勉学の状況

大学院の授業が第 2 セメスターに入り新しい授業が始まりました。私の大学は少し授業スケジュールが複雑で、学部の授業は 2 期制なのに対して大学院の授業は 3 期制です。そのため学部の授業はまだ同じ授業が続きますが、大学院の授業は新しい授業になります。

大学院の新しい授業で私が受講するのは” Agricultural development policy analysis”です。この授業ではそもそも development とは何か、何が development に必要なのかといったことから、それを達成するための具体的な方法について考察します。度重なる休講でまだ 2 回ほどしか授業がありませんでしたが、来月から本格的に授業が始まると思うので楽しみです。この授業の先生は私がいるためかもしれません、すべて英語で授業をしてくださったので私にとってはとてもありがたかったです。

学部の授業はこれまでに引き続き農業経営の収支のバランスシートの作り方や見方を勉強しています。学部の practical class では毎回課題が 1 つないし 2 つ出るのですが、先生が問題を配るのではなく、問題を口頭で読み上げてそれを学生が書き留めて、その課題を解くというスタイルが 2 回に 1 度くらいであります。先生の読むスピードに私の筆記が追いつかず、メモを取るのがなかなか大変です。クラスメイトのノートを見ながら、先生の読み上げる課題をどうにかこうにかメモしている状況です。大変ですが、これに慣れることが出来るよう頑張りたいです。

今月は Marketing course の校外学習でコインバトールから車で 3 時間ほど行った山の上にあるウーティという町に行ってきました。ウーティはお茶とホームメイドチョコレートが有名なまちで、今回は tea factory と Tea board、**The United Planter's Association of Southern India** へ行ってきました。インドではほとんどの人がチャイを毎日飲みます。そのため紅茶の国内市場はとても大きいです。Tea factory では摘み取られた茶葉が紅茶になるまでの過程を見学させてもらいました。一口に紅茶といってもその製造過程によって様々な種類の紅茶が作られることがわかりました。大きな機械の中で茶葉が加工されるのを見たのは初めてで、その規模に驚きました。Tea board of India と **The United Planter's Association of Southern India** ではインドの紅茶の歴史や現在のインド紅茶を取り巻く状況についてお話を伺いました。日本にもお茶を飲む文化があり、日本のお茶文化についても考えるきっかけになりました。ウーティは茶畑や自然豊かな景色があり、観光地としても有名な町です。標高が高いので日本の秋の始まりのような気候で過ごしやすかったです。機会があればまた行きたいと思っています。

2. 生活の状況

今月はクリスマスがありました。インドのクリスマスは一体どんな感じだろうと思いつくわくわくしていたのですが、1週間前になっても特に街にこれといった変化はありませんでした。多少スーパーマーケットやお店でクリスマスらしい飾り付けがされていましたが、やはり日本のイルミネーションのようなきらびやかさはありませんでした…。友人にクリスマスはどうやって過ごすの？と尋ねても大抵の人は実家に帰る、休みを取るといった返答で、クリスマスだから特別何かをするということはあまりないようでした。インドの多くの人はクリスマスを普通の休日のように過ごすようです。ただ、インドに住むキリスト教の人たちは、教会に行ってお祝いをするみたいです。

これでは物足りないというわけではないですが、もうちょっとクリスマスムードを味わいたいと思い、チェンナイの南にあるポンディチェリーという町にクリスマスの連休を利用して行ってきました。ポンディチェリーはタミルナドゥ州ではなく、連邦直轄府で、管理している政府が違います。ほかのインドの州と違ってお酒に税金がかからず、お酒を提供するレストランも多くあります。お酒を求めてポンディチェリーに来る人も多いみたいです。かつてはフランス領であったため、海沿いのフランス人居住区にはフランス風の建物が並んでいてとてもきれいでした。海沿いの道はしっかり整備されていてインドにいながらインドにいないような感覚になりました。ポンディチェリーもそこまでクリスマス感のあるイルミネーションなどは行われていませんでしたが、街中にある教会ではイルミネーションがおこなわれていてこちらもとてもきれいでした。ポンディチェリーにはフランス料理をはじめとした西洋料理を提供しているレストランが多いので機会があったらフランス料理を食べたいと思ったのですが、クリスマスということでどこも混雑しており、またどこも値段が高かったので今回はあきらめました…。ポンディチェリーにはきれいなビーチも多くあり、たくさんの方が海水浴をしていました。クリスマスにビーチは私の人生で初めての体験で、その日がクリスマスイブであることを忘れていました。でもこういうクリスマスもありだなと思いました。

クリスマス当日はコインバトールで友人と過ごしました。2週間ほど前に偶然、今年の夏まで日本に留学していたという方に出会い、その方とその方の友達がランチに誘ってくれました。クリスマスだからといいながら結局食べたのはインド料理(今回はチキンビリヤニとマトンビリヤニという炊き込みご飯のようなもの)でしたが、とてもおいしかったです。そのあと映画を見ようということになり、近くのショッピングモールへいったのですが、さすがクリスマス。すでにどの回も満席で見ることが出来ませんでした。友人曰く週末に映画を見るなら最低でも3日前には予約をしないと席が取れないとのこと。日本では公開初日の人気作でもない限り割と当日でもチケットが取れると思うのですが、インドではそうはいかないようです。インドの人は基本的に前々から計画を立てるということをやらないのですが(私の友人たちを見ているとそう思われます)、今回のことでインドの人口の多さと映画がいかに人気の娯楽であるかということを感じました。ショッピングモールには大きなクリスマスツリーがあって、モール内にはサンタクロ

ースのコスチュームとお面をつけた店員さんがお客さんと写真を撮ったりしていました。

ということであまりクリスマスらしいことをしなかったクリスマスでしたが、これはこれで素敵な思い出になりました。

年末年始の長期休暇がインドにはないため、2017年がもうすぐ終わるという感覚があまりありませんが、新しい1年が始まるということで気持ちを新たに頑張りたいです。



ウーティのお茶工場です。ここで茶葉を乾かします。



ウーティの茶畑です。山一面に広がっていて素敵な景色をつくっていました。



ボンディチェリーのビーチです。クリスマスであることを忘れていました。

クリスマスのショッピングモールです。真ん中に大きなクリスマスツリーがありました。

